

【特別寄稿】

被服衛生学部会員の皆様への感謝

平田耕造

神戸女子大学名誉教授、NPO 法人 AVA 健康 Labo 理事長

この度、(一社)日本家政学会被服衛生学部会(以下、被服衛生学部会)名誉会員の称号を頂戴し誠に光栄に存じます。金沢から神戸へ異動した年に部会員として皆様方の輪に入れていただきました。田村照子先生、故登倉尋実先生をはじめ、数多くの部会員の皆様から多大なるご指導ご鞭撻を賜りました。心より深く感謝申し上げます。被服衛生学部会では様々な企画・運営等を担当させていただき多くの経験を積むことができました。

2002年の部会報第22号の巻頭言に小生が当時の思いを認めていました。1993年の本部会報第13号の巻頭言の中で、当時の奥窪部会長が、「衣服の快適性・衛生にかかわるオーソライズされた評価法はまだ確立されていない」ことを指摘しておられたことを引用していました。これはなかなか難しい課題であり、現在でも大きな課題のままです。今後現役の部会員の皆様に更なるアイデアを活かした研究を継続し、確立していただけることを期待致します。

1996年に科学研究費補助金研究成果公開促進費を得て、本部会では初めて東京で「衣服と人間の健康」と題して公開講座が開催されました。参加させていただき、これは本当に新鮮で画期的な企画であったと思います。1998年には企画委員長を務めさせていただいた際に、公開促進費を得て、部会員の皆様とともに大阪で「衣服と健康の科学、最前線」の名称で公開講座を開催しました。田村照子部会長、伊藤紀子副部会長のご指導の下、大阪ガーデンパレスの会場が非常に多くの一般参加者で賑わったことを思い出します。当時のプログラムは、1. 高齢者の衣服と健康・快適性では柝原裕先生(九州芸工大)、岡田宣子先生(文化女子大)、2. 衣服の健康性と睡眠・日内リズムでは、岡本一枝先生(獨協医大)、登倉尋実先生(奈良女子大)、3. 子どもの靴・衣服と健康では、柴田祥江先生(兵庫県生活科研)、都築和代先生(通産省生命工学工技研)、綿貫茂喜先生(九州

芸工大)、4. 暑さとスポーツ時の衣服と健康・快適性では、平林由果先生(金城学院大)、平田耕造(神戸女子大)、さらに「ファッションと健康の科学」と題して総合討論が行われ、非常に活発な質疑応答が交わされました。この時期の部会員は約140名に達していました。

この公開講座は本部会の先生方が築いてこられた研究成果を広く社会に還元することを目的とした活動であり、講座を通じて一般参加者の皆様から本部会に対する社会の需要・期待の大きさをとても強く感じた次第です。この体験は当時の私にとっても強烈なインパクトを与え、今日までも続いております。

部会の役員としては、2001～2002年には伊藤紀子部会長のご指導の下、副部会長をさせていただき、2003～2004年には岩崎房子副部会長とともに、部会長を務めさせていただきました。2004年度の公開促進費による公開講座は、諸岡晴美先生と企画幹事会のお世話により富山県民会館を会場として「衣服と健康の科学、最前線—衣服の働きと新素材の性質—」のテーマで、2005年3月に開催しました。当日のプログラムは、基調講演1: 暑さ寒さから身を守る、平田耕造(神戸女子大)、事例研究として①話題の新素材紹介、野尻智弘先生(富山県工技センター)、②地球にやさしい新繊維を使った衣服の快適性、林千穂先生(長野県短大)、③人にやさしい新加工を施した衣服の快適性、諸岡晴美先生(富山大)、④新機能性素材で作る安全・安心な衣服・寝具、菅井清美先生(県新潟女子短大)・水野一枝先生(産技総研)、基調講演2: 圧迫から身を守る、田村照子先生(文化女子大)、事例研究として⑤最近の靴・靴下と健康、岩崎房子先生(文化女子大)・中橋美幸先生(富山県工技センター)、⑥最近の体型補整下着と健康、斎藤秀子先生(山梨県立女子短大)・三野たまき先生(信州大)、その後「衣服と健康に関するワークショップ」と「展示コーナーでの

見学と体験」があり、大盛況のうちに終わることができました。参加された小・中・高校や専門学校の教員から企業、一般社会人など富山県内外から104名もの皆様から衣服と健康に関する情報提供への熱い期待を強く感じました。浅学菲才の小生をお支えくださいました部会役員の皆様、及び総ての部会員の先生方に有難く厚く御礼申し上げます。

2010年8月には、神戸女子大学教育センターを会場として第29回被服衛生学部会セミナー、総合テーマ「皮膚感覚の最新科学と衣服の力」を開催しました(参加者50名)。

生理学研究所細胞生理学部門の富永真琴教授から「皮膚細胞生理学の最先端研究：被服衛生学への提言」と題した特別講演で、皮膚が温度を最初に感じるメカニズムの詳細をお話いただきました。本講演には、2021年のノーベル生理学・医学賞「温度と触覚の受容体の発見」が授与されたジュリアス(David Julius)教授との共著論文^{1),2)}の内容が含まれており、これらはノーベル賞のkey publicationsに選ばれています。

盛りだくさんのセミナーで、様々な分野の専門家の方々からお話しを伺い、理解を深める貴重な時間となりました。(株)アシックススポーツ工学研究所副所長の西脇剛史氏から「スポーツウェアの開発からみた被服衛生～パフォーマンス向上のための設計～」、奈良女子大学の芝崎学先生から「発汗と皮膚血流量の温熱生理学からみた被服衛生学」、桜美林大学の山口創先生からは「皮膚感覚の最新心理学と被服衛生」と題した講演をいただきました。さらに研究発表をいただいた若手の先生方、Su-Young SON先生(九州大)、深沢太香子先生(京都教育大)、安坂友希先生(神戸女子大)にも厚くお礼申し上げます。講師の先生方のご講演後、大変活発な討論が繰り広げられました。

初日の夜には観光船ルミナス神戸2に乗り、船上懇親会(参加者:43名)として神戸港から明石海峡大橋をめぐるディナークルーズを楽しみながら部会員の皆様方と交流を深めることができました。船のゆったりとした揺れと夜景は、議論を深めるにはちょうど良い刺激となったようです。

2日目午後には、兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センターのご協力で、バスツアー

「播州織～その技術と作品～」を実施したところ35名もの参加者が得られ、兵庫県が誇る播州織の産地にて実物を前にたくさんの質問も出て、その技術と作品について学ぶことができました。実行委員として関わっていただきました関西地区の部会員の皆様にお支えいただき、深く感謝申し上げます。

これまで被服衛生学部会員として数多くの行事や研究に参加させていただき、また衣服と健康に関するディカッションを多くの先生方とさせていただきました経験は本当に素晴らしいものでした。衣服の物理的特性と人の生理学、体型的特徴などに周囲の温度や湿度などの環境が組み合わされた複雑なパズルを解くような被服衛生学は実に面白い学問であると同時に、SDGsに表される全人類的な課題解決の一翼を担うため、社会的な期待値もきわめて高いと感じています。

そこでこれからもう少しだけ上述の課題に向き合うため、退職を機にNPO法人AVA健康Laboを2022年8月に設立しました。これまで経験したことのない各種の書類作成や様々のサービス提供について考えることを楽しんでおります。被服衛生学部会の皆様には今後もお世話になると思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

文献

- 1) Caterina MJ, Schumacher MA, Tominaga M, Rosen TA, Levine JD, *Julius D. The capsaicin receptor: a heat-activated ion channel in the pain pathway. *Nature* 1997;389:816-824.
- 2) Tominaga M, Caterina MJ, Malmberg AB, Rosen TA, Gilbert H, Skinner K, Raumann BE, Basbaum AI, *Julius D. The cloned capsaicin receptor integrates multiple pain-producing stimuli. *Neuron* 1998;21:531-543.

<連絡先>

〒651-2242 兵庫県神戸市西区井吹台東町 1-2-1-10-1304 NPO 法人AVA健康Labo 理事長
平田耕造
TEL: 090-7963-1070 (直通)
Eメール: kozohirataa117@gmail.com